



発行 真宗大谷派 高山教務所
発行者 出雲路 善公
〒506-0857 高山市鉄砲町6番地
☎(0577)32-0776
*毎月20日発行 50,000部
三市一郡無料配布
印刷 山都印刷株式会社

念じられ 照らされて

非常の言は常人の耳に入らず

北嶋 文雄



〔略歴〕
一九七〇年生まれ。福岡県光
蓮寺住職。本願寺派布教使。
浄土真宗本願寺派「仏教こど
も新聞」編集委員長。

昔、中国に曇鸞大師とい
う方がいらつしやうた。
大師の言葉に「非常の言
は常人の耳に入らず」とい
うものがある。「非常の
言」とは、常識を超えた
言葉ということである。
ここでは仏さまの言葉の
ことを指す。「常人」と
は常識的な人間、つまり
常識だけで物事を判断す
る人のことである。常識
だけで判断する人は、常
識を超えた仏さまの言葉
を受け入れようとはしな
いというのである。

しかし考えてみると、
私たちは知っていること
しか知らない。知らない
ことは知らないのである。
ところが仏さまの言葉を
受け入れようとしていない
人は、自分の知っている論
理が全てであって、知ら
ない論理などないと考え
ているのかもしれない。

仏さまの言葉を聞くこ
きに大切なことは、自分
の知っている論理が全て
ではないと気づくことで
ある。自分の知らない論
理があると気づくことで
ある。仏さまの言葉は、
そもそも私たちの知らな
い論理なのである。
以前、ある男性に次の
ようなことを言われた。
「浄土真宗の話はいつ
も、阿弥陀如来がどうだ
とか、浄土がどうだとか
常識はずれな話ばかりで
すね。あんな常識はずれ
な話は、現代人には通用
しませんよ」

このような考えを持っ
ているのは、この男性だ
けではないだろう。きっ
と多くの人が、似たよう
な考えを持っているので
はないだろうか。
私は、この男性の言い
たいことが解らないわけ

「自分」と「他人」とい
うように自分と他人とを
分けて認識しているが、
本来自分と他人という分
け隔てはないという真理
を「一如」というのであ
る。このことは、私たち
にはよく分からない。私
たちが思い計らうことの
できない領域があるのだ。
その領域を、私たちに受
け取らせようとしている
のがお経なのである。
お経に説かれる仏さま
の言葉は、もとより常識
を超えているのだ。そ
してその仏さまの言葉
が、空しく過ぎゆく人生
に尊い意味を与えてくだ
さるのである。
人は皆、一人で生まれ
て一人で死んでいく。自
分の人生を代わってくれ
る者はいない。自分の苦
しみや悲しみを代わって
くれる者もない。自分
の苦しみや悲しみを本当
に解ってくれる者もいな
い。人は本来孤独なので
ある。

その孤独の命に告げら
れるのが阿弥陀如来の話
である。
「あなたの孤独の人生
に、たったお一方、ご一
緒くださる仏さまがい
らつしやるのだ。あなた
の苦しみや悲しみを、
たったお一方、解って
くださる仏さまがいらつ
しやるのだ。その仏は声
の仏となって、あなたの
所に来てくださいている

のだ。その仏を南無阿弥
陀仏というのである」
この仏さまの話を受け
入れて念仏する人は、も
う一人ではない。
阿弥陀如来の話は、悟
りの領域から出て来た真
理の話である。悟りの真
理が分からない愚かな私
の為に、私の能力に合わ
せて出て来られた仏さま
なのである。私の能力に
合わせて説かれていたの
から、「常識はずれ」と賢
げなことは言わずに、愚
直に受け入れるだけであ
る。
そうして仏さまの言葉
を愚直に受け入れるこ
とができた人の上にとこ
そ、仏さまの言葉は生き
てはたらくのである。

「あなたのお話を聞きました。「ひとつの肉まんをともだちと平等に分ける」という状況のもとに、「普段」、「自分が満たされて、相手が飢えている場合」、「これから自分が食べられなくなる場合」など、自分の状況が変われば、私の「平等」は変わるんだ、自分の思う「平等」がほんとうの「平等」なのか、と問いかけてくださるのがアミダさま。ともだちとのケンカにおいても、自分の正義がどれだけ偏っているか、冷静に確かめなおしなさい、と見てくださるのがアミダさまであると教えていただき、みんなで一緒に考えました。
出会う・つくる・あそぶ! あいにくの天気でしたが、色んな企画を楽しみ、みんな元気いっぱい遊びました。

児童夏のつどい in 了因寺



7月21日~22日に清見組・了因寺(高山市清見町藤瀬)にて児童夏のつどいを開催しました。

お寺では一緒に手を合わせ、大きな声で正信偈を唱和し、講師の夏野了氏(清見組・満成寺住職)から「ともだちってなんだろう?」というテーマのお話を聞きました。「ひとつの肉まんをともだちと平等に分ける」という状況のもとに、「普段」、「自分が満たされて、相手が飢えている場合」、「これから自分が食べられなくなる場合」など、自分の状況が変われば、私の「平等」は変わるんだ、自分の思う「平等」がほんとうの「平等」なのか、と問いかけてくださるのがアミダさま。ともだちとのケンカにおいても、自分の正義がどれだけ偏っているか、冷静に確かめなおしなさい、と見てくださるのがアミダさまであると教えていただき、みんなで一緒に考えました。



おっぱら自然体験センターにて砂金採りと熱気球体験

別院定例法座 午後1時から	
8月28日 親鸞聖人ご命日法座 講題 「仏弟子の名のりに愧ず — 仮名の菩薩 —」 講師 春國 文春氏 (玄興寺)	9月3日 三日のご坊 講題 「迷信と安心」 講師 小原 正憲氏 (専念寺)

広告欄 はじめます

毎月一度、飛騨全域に新聞折込される「ひだご坊」に企業広告を載せませんか? 年間通して広告枠をご提供いたします。掲載希望は高山教務所にお問い合わせください。

媒体名	ひだご坊	掲載サイズ	① 縦6cm×横5cm ② 縦6cm×横2.5cm
発行部数	50,000部	料金(協賛)	① 100,000円 ② 50,000円
配布エリア	飛騨一円	枠数	10~20。 定数次第締切
発行日	毎月20日、新聞折込	期間	2020年 1月~12月
広告回数	年間10回	デザイン	要相談。都度変更可

☎テレホン法話(0577)342313 ☎8月21日~31日:畑美貴氏「願徳寺」 ☎9月1日~10日:橋和子氏「妙覺寺」 ☎9月11日~20日:樋口博之氏「常照寺」 宗教トラブル相談窓口(0577)3210763

家族で話そう

仏教×グリーンフケア④

尾角 光美

葬儀の現場にて

前回は、わざわざお坊さんがグリーンフケアを学ぶ必要があるのだろうかというテーマについて、考えてみました。先日お会いした、40年近く葬儀関係のお仕事をされている方が「葬儀の変化のス...

寺院葬の復活

一方で、葬儀が会館メインになり、もう消滅かと思われていた「寺院葬」を復活させようという動きが全国各地で起きています。長野県のあるお寺さんは、寺院葬をはじめたところ、3年...

寺院内を勧められているお坊さんたちは、遺族にとって「経済的負担」を少なくできることをひとつの利点としてあげています。ただでさえ、日本の葬儀は世界的に見ても、高額の水準になっていま...

す。とにかくお金をかけたくない、迷惑をかけたたくない、という思いから、家族葬や、直葬にされる方が増えている中で、会館よりも寺院で送ることに、丁寧な心をこめて、かつ経済的な心配を減らしてできるのは大きな支えになります。「時間的な制約に追われることなく、ゆつくりとお別れができるのがよい」といった声も聞かえてくる場合があります。会館は「お客さま」ですが、お寺では仏さまを前に、みんなで一緒の方向を向くことができるということとを言われていたお寺さんもありました。

そもそも、しつらえ、お荘厳そのものが亡き方のいる極楽を表していること。お寺には多くの人が手を合わせて、想いを重ねてきた歴史もあります。仏さまを中心として死者と生者を結びつけてきた空間の安心感があります。また、寺院葬をされたご遺族にとつて、会館と異なるのは、お寺が「また訪れることができる場」ということも大きいのではないのでしょうか。

私自身も兄の葬儀はお寺で行いました。しつらえがすでに極楽浄土を表すものであるからこそ、お花なども量は最小限で済み、季節にあったもので、兄の心やさしい人柄が伝わるようなお花を選ぶことができました。お寺のお堂に響く、お経やお念仏の声は、これまで過去に何度となく同じ場で、亡くした人を想いながらとなえられたものに重なっていく響きのようでした。亡き人を想い、亡き人か...

ら想われている自分たちのことを感じられるようになるには、それぞれの時間の経過があります。人によって葬儀の時にそう感じられる人もいれば、十年かけて、その気持ちになる人もいます。そのお寺に、幾度となく足を運ぶことで、そうした想いが育まれていくのではないのでしょうか。

必要なことを届ける また、ご遺族にとつてははじめの段階で必要な「情報提供」も、亡くした直後の葬儀で行えるというのとは大事なグリーンフケアのポイントです。今では全国のお寺さんが、通夜や四十九日の場で、「大オン」を配ってくださったり、葬儀のパンフレット(式の説明や、法名が書かれていたり、お経の意味が書かれているもの)の中に入れてくださっているお寺さんもあります。自殺で亡くされたり、お子さんを亡くされたご遺族には、特に、第二条「自分を許してもいい」：『わたしが悪かったんだ』と自分を責めてどうしようもない時。『どうにもできないことがあったんだ』ということを確認してもよいのです。自分を責めるのは、あなたにとつて、その人の存在がそれほどまでに大事だった証です。』を紹介して読んでいるといふ僧侶の方もいらっしゃいました。葬儀の場からできること、必要なことを届けられるというの大切なことです。

今回は佐賀枝夏文さんの「人生の「こんなこと」「あんなこと」⑨」です。

飛騨学場開催報告

8月1日から5日までの期間、高山別院にて「飛騨学場」が開催されました。飛騨学場とは、ご門徒さんのお支えにより長年続けられている、飛騨80ヶ寺の寺族を中心とした学びの場です。本年は、藤場俊基先生に「仏教と人間」、安藤弥先生に「皇太子聖徳奉讃」という講題でご講義いただき、学びを深めることができました。同期日にて開催された「暁天講座」にもたくさんの方にお越しいただきました。

【飛騨学場由来】

1870(明治3)年、靈寿院勝縁(21代巖如上人の弟)が別院に赴任し、今の別院鐘樓堂(65年程前、鐘樓堂は反対側にあった)の所に「真宗学問所」を創設した。以前の真宗学問所は臨時的で、講習の場も時期も定まっていなかった。新しく学問所を定めたことで、時の高山県知事宮原大輔は好意を寄せ、広く大衆にも開放することを建言。以来、大衆のために法座が開かれ、また、課題講座を設けて一般の啓蒙に努めた。これが本格的な「飛騨学場」の始まりで、飛騨における市民文化講座の先駆けである。思想問題、農村問題、郷土史、衛生問題、同和問題、更には英語講座も開いていた。高山御坊が「飛騨御坊」という親しみの名称になった由来は、学問と文化活動より生まれたのである。



藤場氏の講義

ご壇案内

ご壇は、「ご坊」の法座を地域寺院においてひらく、開法の場です。

【8月】

【9月】

- 22日(木)敬勝寺[白川村]
23日(金)明善寺[白川村]
24日(土)誓願寺[片野町]
25日(日)蓮光寺[白川村]
28日(水)専念寺[鉄砲町]
30日(金)寶藏寺[莊川町]
31日(土)蓮徳寺[山田町]
聖圓寺[宮川町]
1日(日)南春寺[国府町]
2日(月)満成寺[清見町]
3日(火)願徳寺[河合町]
4日(水)浄永寺[古川町]
5日(木)西正寺[清見町]
6日(金)蓮勝寺[莊川町]
7日(土)弘誓寺[清見町]
8日(日)憶念寺[古川町]
9日(月)不遠寺[総和町]
10日(火)還來寺[丹生川町]
11日(水)恵林寺[清見町]
12日(木)誓願寺[古川町]
13日(金)長林寺[清見町]
14日(土)遊浄寺[莊川町]
15日(日)三島多聞
16日(月)三枝正尚氏(隨縁寺住職)
17日(火)細川寛氏(浄慶寺住職)
18日(水)窪田哲氏(圓徳寺前任住職)
19日(木)坂上祥司氏(靈雲寺住職)

秋の彼岸会。永代経法要

亡き方を縁として仏法に出遇う大切な仏事です。ぜひお参りください。

9月20日(金)〜26日(木) 午後一時から勤行・法話

- 20日(金)白尾公信氏(了心寺住職)
21日(土)三本昌之氏(蓮徳寺住職)
22日(日)三枝正尚氏(隨縁寺住職)
23日(月)三島多聞(高山別院輪番)
24日(火)細川寛氏(浄慶寺住職)
25日(水)窪田哲氏(圓徳寺前任住職)
26日(木)坂上祥司氏(靈雲寺住職)

定例法座・法話(午後1時から) ○8月28日(水)春國文春氏「玄興寺」

○9月3日(火)小原正憲氏「専念寺」

○9月11日(水)別院輪番三島多聞

どなたさまでもお参りください。